

COVID19 第3報 (2020/3/29) 小口こどもクリニック 小口弘毅

YouTube を介して世界の情報にアクセスし、開業小児科医の目を通しての COVID19 第3報をお届けします。3月13日には WHO はついに Pandemic (世界的大流行) と宣言しています。しかし初期(outbreak の時期)に WHO スタッフは中国に行き、武漢を視察し、初期対応が正しく、しかも讚えている姿勢はいかかなものでしょうか？最近中国がチェコに送ったテストキットは 80%のエラー率だったそうです。そうなると中国の感染者の数は全く信用できないことになります。COVID-19 virus が時に CCP(Chines Communist Party) virus と呼ばれていることに気がつきましたか？世界が中国人に非はなく、しかし中央政府の人権無視の強権的対応を非難しているのです。私自身は1週間先も予測できない Pandemic の状況、そして医療をはるかに超える世界的パニックに大きな不安を覚えています。3月9日に第1報を出した時点では感染者数は未だ中国がほとんどで、109,983人(死者は3805人)でした。その後、3月15日(2報)には157,312人(死者は5,840人)、3月23日(3報)には343,015人(死者は14,719人)。そして4報の3月29日には677,749人(死者は31,776人、死亡率は4.7%)に増加しています(20日間で4.3倍)。今では Pandemic の中心は欧米諸国に大きくシフトしています。ライブで欧米諸国の患者数の推移を見てみると、3月10日頃から爆発的に増加しており、今後数週間で世界の様相は劇的に変化する可能性があります(イタリア人は“つなみ”と表現、そして英語では“exponential increase”と訴えています)。

USA の患者増加は爆発的で29日の患者数は124,697人(死者は2229人)、悲惨な状況にあるイタリアの患者数92,473人(死者は10,023人、死亡率10.8%!)を抜き去っています。ニューヨーク市はまさに流行の中心となっており、2~3週後に流行のピークが来ると予測して、病床の新設、GMなどの自動車メーカーに緊急で人工呼吸器の生産、そして退職した医療関係者にボランティアを要請し、それに6万人以上が応募しています。そニューヨークは明日の東京であると思います。先週から国内の感染者数は急激に増加していますが、今後数週間で爆発的に日本国内でも感染拡大が見られるのではないかと心配しています。その緊急事態に日本の医療体制は準備がほとんどされていないと感じています。

韓国では早い時期に感染拡大が見られましたが、2003年のSARSの経験から官民ともに対応は早く、今も感染拡大をしのいでいます。すでに診断キット(結果が出るまで6時間と言われていました)の開発が進み、3月22日までに338,000人に検査を行い、感染が確認された人は9583人(少しズレがありますが、検査による陽性率はわずか2.8%)に留まっています。私はWHOから“マスクは非感染者にとって予防にはあまり役立たない”という声明を受け入れました。しかし韓国の対応を指揮しているKim医師はアジアである程度感染拡大を防げているのは文化的な要因、特にアジア人はマスクをする習慣があり、そのことが感染予防に大きく貢献していると言っており、絶対ではありませんが、やはりマスクはある程度予防効果はあると考えを変えました。今や世界各国がロックダウン(Lock down)およびsocial distancing(人との交流を無くす?)の方針を打ち出しています。皮肉なことに人々はpandemicを通じて“世界は一つ”を実感し、地球人として見えない敵ウイルスと戦うために一致団結しようという声が高まっています。しかし水、食料、そして医療体制もないアフリカ諸国、インドなどの発展途上国、そして難民キャンプまで本格的に感染拡大したらどれだけの人が亡くなるか想像を超えます！

最近の報告からも小児の発生は少なく、小児のCOVID19臨床経過は軽いようですが、イタリアのデータをみると80歳以上の高齢者に限るとその死亡率は14.8%となります。しかし基礎疾患のある小児は当然ながら重症化する可能性があり注意しなければなりません。医療的ケアの必要とする子供達には本当に脅威となります。最近では子供も若者も重症化するという報告が出始めています。さらに問題なのはCOVID19の伝染

力はかなり強く（非常に感染力の強い麻疹に比べても 1/4~1/3 くらい、しかしインフルエンザの倍くらい？）、また高齢者そして基礎疾患のある人を除くとおよそ 80%が無症状か軽症であり、この人達が感染を拡げていると指摘されています（virus vector とも表現されます）。また全世界で必死に治療に当たっている医療者も感染し重症化し死亡している事も報道されています。これに対して私たちのクリニックスタッフも他山の石ではないと自覚して診療に当たっています。しかしニュースでちょっと嬉しいシーンが見られました。それは世界中で市民が不眠不休で治療に当たっている医療者を褒め称えている姿でした。

未だ十分に解明されていないイルス感染症（臨床経過と予後）ですが、ワクチン開発は猛烈な勢いで進められています。しかし早くても 2 年しないとインフルエンザワクチンのように多くの人々に接種出来ないでしょう。けれどもウイルスに有効とされ現在使われている薬を転用しようと臨床試験（重症者に試験的に投与）がすでに行われています。また回復した人の血液から COVID19 に対する抗体を精製して重症者への投与も検討されています。これらは近い将来に試みられる治療法として有望です。このまま感染拡大の対応策をとらないと、人口の 6~7 割が感染する可能性があると言われている専門家もいます。クリニックは上記の事を認識して義務を果たすべく慎重に診療を続けるしかないと思っています。私たちも今後 1 ヶ月の間に大きく状況が変化する可能性を承知して診療したいと思います。

以下要約します。不安はますます高まることと思いますが、遠慮なく相談して下さい。

1. 日々の生活で予防に努める。飛沫感染であり空気感染ではありません、しかし非常に小さな水滴（aerosol）は空气中を浮遊するので空気感染ともいえるので部屋の換気は重要です。また咳などで飛散した飛沫は近くのテーブルなどの表面に付着します。数時間から場合によっては数日ウイルスは生きており感染力を有します。一番有効なのは頻りに手洗いし消毒する事です。食事、睡眠、そして休息を取り、免疫力を高めましょう。
2. 予防接種、健診などで受診する場合は、一般受診とは受診の時間帯を厳格に分けるようにしています。また待合室は比較的広いのでできるだけ離れて座ってください。
3. 健康な人たち、特に子供達にとって COVID19 は命の脅威となる重症感染ではないと思われますので冷静にパニックになる事なく生活し、新緑の季節を楽しんでください。
4. COVID19 の初期症状は通常の風邪違いがないと思われます。治療法もないので体調不良の場合は大人も子供も家で 4~5 日間くらい安静にしましょう。